

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第12号

令和7年7月26日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

2025年度 第2学期 始業式

～行事が目白押し～

校長 森 勝義

日本では7月20日、参議院選挙も無事終了しました。日本に一時帰国されていた職員から日本の異常な暑さの報告を受けました。38℃にもなる暑さらしいです。体調管理大変だと思います。

さて、約1ヶ月の夏休みもあっという間に終了し、いよいよ今日から第2学期が始まりました。家族で旅行に出かけたり、日本へ一時帰国したり、現地校のサマーキャンプに参加したりと、それぞれ充実した夏休みを過ごしたことと思います。

2学期は21日間の授業があります。様々な行事が目白押しです。

行事予定

9月 6日	中学部中間テスト	11月 1日	避難訓練（火災対応）
9月20日	第42回運動会	11月15日	高等部弁論大会
10月 4日	個人懇談会開始	11月23日	中学部期末テスト
10月11日	第1回漢字検定	12月 6日	幼稚部クリスマス会
10月25日	授業参観日	12月20日	2学期終業日

読書感想文 2025 「空缶」 はやしきようこ を読んで

高校2年生 板垣 優奈

この本は、原爆の被害にあった人の今でもある苦しみやトラウマや言葉、心の奥深くにある深い意味や気持ちを学ぶことができます。廃墟されてしまう学校に集まった原爆を経験した卒業生5人が最後にその学校で集まり一人ずつのストーリーそして一人一人の思いが描かれているお話です。

最初に思ったことは様々な文の表現で五人の主人公達の思いが鮮明に書かれていると感じました。

特に印象的だった場面は、”少女は赤く、炎でただれた蓋のない空缶に、骨を入れていたキヌコ。なくなった両親の骨だったのです。そして少女は両手で抱き上げるように空缶を取り出す”

という場面では幼い子どもが両親をなくしどれだけ心ぼそかったかそして不安、抱えきれない寂しさをあらわしていると感じました。もし私も自分の家族を亡くした立場だったら同じことをすると思います。少しでもその人の事を少しでも近くに感じたいと思うからです。

そして大人になったきぬ子は原爆のときのガラスの破片が見つかりました。

私はこの場面できぬ子はおとなになっても原爆の傷は癒えないということ今でもその時の不安、トラウマが心に縛りついているという意味と重なっていると思いました。

著者がこの小説を通して伝えたいことは、原爆にあった人が今どのような気持ちで生きているか原爆の被害者の気持ちそして原爆ということを知っている人の気持ち、そして原爆被害者としてどう付き合っ

いるのか様々な人の心の視点があるということ、本当の気持ちは本人にはわからない感じられないということを感じました。

そして最後にこの本で感じたことは、原爆の話とは少しズレてしまうけれど、人の視線や気持ちは本人にはわからないということです。すごく当たり前の言葉と感じてしまうけれど、他者が思っていること感じている事はその人にしか感じるができないし、わかりません。

だからこそお互いに理解しあい繋がるという事が大切だとこの話を読んで改めて感じました。

日本語の部屋 バイリンガル・エキサイトメントを読んで。

高校3年生 野田 唯花

私はこの話を読んで作者は自分が日本語で書かれた作品を英訳する立場のおかげで日本語には限度が無い幅広い目的として使いやすいということを最も読者に伝えたい部分だということが分かりました。その理由として作者は様々な国の出来事を日本語で言い換えて考えるようになったことと「万葉集」に収まっている歌を感じながらそれが詠われている風景を眺めていたことが挙げられます。

一つ目の理由は作者が様々な国で起きた出来事を日本語に置き換えることで別の印象に気付かされるようになったということです。作中では「世界を「和訳」するように日本語で書くと、その世界はいつも新しく見えるのである」と書かれている。これは日本語を使うことでしか得られない思いがけない知見を見出すことが可能だと表しています。このことから作者は自分ならではの解釈で日本語を自身に役立てているということが分かります。

二つ目の理由は作者本人が英訳した「万葉集」に収束された歌とその風景を合致させながらその偉大さを体感しているということです。作中では「どこを歩いても自分が「読まれた自然」の中にいる」と書かれている。これは作者が「万葉集」で詠われた歌が表現されている場所に訪れることで実際にその歌に心から触れることができると表しています。このことから作者は日本語で書かれた歌を頭に入れながらそれが書かれた景色を見晴らす事でその地点をより明確に把握するということが分かります。

これらの理由から私は作者は自分の境遇を利用し日本語を限りなく様々な用途として便利だということを最も読者に伝えたい部分だということが分かりました。



ヒゲ森の言葉の森・探検



ちようちよう はっし

丁丁発止

激しく議論を戦わせるさま。刀で激しく打ち合うこと
丁丁は刀で続けて打ち合う音。発止は固いものが打ち
当たる音。

大丈夫、

きみの波が来る。

デューク・カハナモク

1890年～1968年 アメリカのサーファー

なかなか自分にチャンスが来なくても、いつかきつと巡ってくるはずだ。準備しながら、気長に待とう。